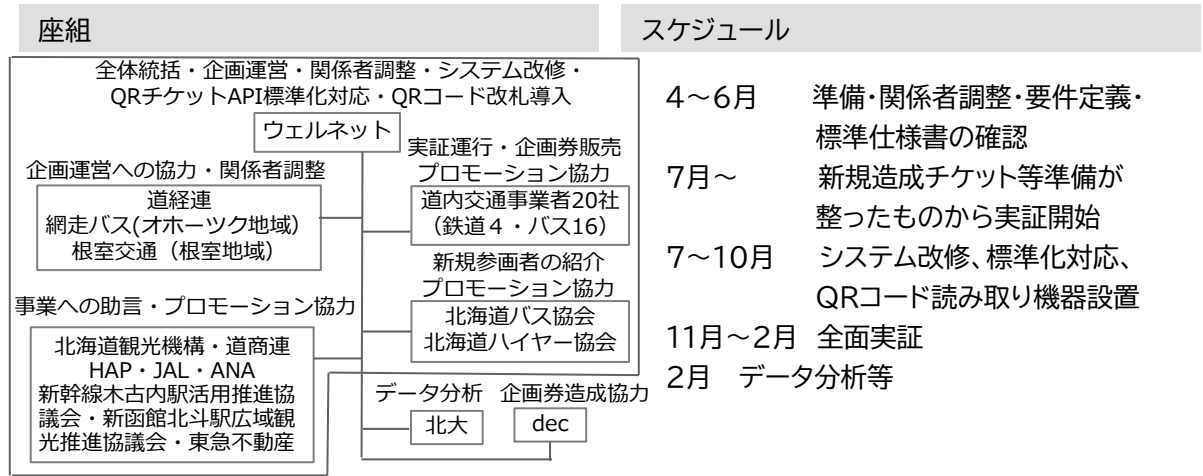


令和8年度 観光MaaS推進事業 9事業について

※公募申請時の資料のため、今後、変更の可能性があります。

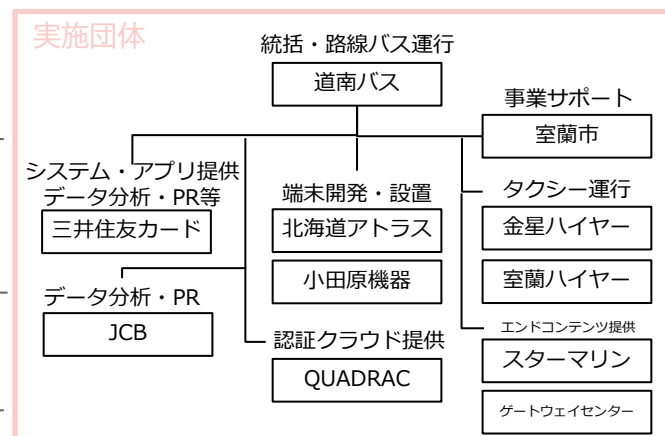
プロジェクト概要	2025年度に道内の多くの交通事業者等が参画して構築した「ぐるっと北海道」において、モデル地域での複数交通モードが連携した標準化対応QRコード改札導入、複数交通モード連携の拡充、観光コンテンツ連携による付加価値向上、サイトの機能強化等を通じて、データ活用の拡充・高度化を図り、道内周遊促進と道内観光消費拡大を図る。	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 道内観光では、宿泊者の道央圏集中などの「地域偏在」と、観光需要が季節によって大きく変動する「繁閑格差」が課題である。さらに地方部では、二次交通の脆弱さや、交通・宿泊・観光情報が一元化されていないことが、誘客・周遊や消費拡大を妨げている。 	事業エリア 北海道全域(QRコード改札導入モデル地域及び関連地域:網走市・小清水町・斜里町・清里町・北見市・根室市・浜中町・厚岸町・釧路市 その他の主たる地域:札幌市・小樽市・函館市・北斗市・木古内町・江差町・上ノ国町・帯広市・音更町・池田町・新得町・紋別市等)
取組内容	<p>【交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル地域(網走地域・根室地域)において、複数交通モードが連携した標準化対応QRコード改札を導入する。これにより、利用者の利便を向上し、事業者の目視負担等を軽減する。 「都市間バス乗り放題」やバス・鉄道とタクシー・デマンド交通との組み合わせ等、マルチモーダルなデジタルチケットを造成・拡充する。 交通デジタルチケットの購入希望者に到着地・経由地等の関連交通のチケットや情報等を提示する「おすすめ機能」等の実装により、利用者にサイト上でのシームレス体験を提供する。 <p>【モビリティ・データの取得と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> エンドコンテンツの購買・利用状況と、モデル地域でのODデータ等を掛け合わせ、北大の協力で分析し、道内観光の付加価値向上に向けたマーケティングミックスに活用する。 <p>【エンドコンテンツとの連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光コンテンツ等と交通を組み合わせた付加価値の高いデジタルチケットを拡充・造成する他、新たに実装する「おすすめ」機能で関連観光を提示する。 「QRコード改札」導入モデル地域で、地元学生の消費拡大策との連携方策を展開する。 <p>【協業化・共通化・標準化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「QRチケット相互運用API標準仕様書」への適合性を高め、今回のQRコード改札導入モデル地域で先行実装するとともに、隣接地域のQRシステムとの連携を協議する。 順次、標準化対応のQRシステムの導入・連携範囲を拡大し、将来的には全道展開を目指す。 	<p>交通事業者</p> <p>航空:JAL・ANA 鉄道:JR北海道、道南いさりび鉄道、函館市電、札幌市電 バス:北海道バス協会・北海道中央バス・網走バス・根室交通・北海道拓殖バス等17社 タクシー:北海道ハイヤー協会 オンデマンド交通:網走バス、道内自治体(依頼予定)</p> <p>MaaSアプリ等</p> <ul style="list-style-type: none"> MaaSプラットフォーム:アルタイルトリプルスタークラウド フロントエンド:ぐるっと北海道(改修) 経路検索機能:Gemini、Google Map デマンド交通配車システム:SAVS等 ダッシュボードシステム:アルタイルトリプルスタークラウド <p>データの活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> データの取得方法:デジタルチケットの販売・利用データ、QRコード読み取り機・携帯電話位置情報によるODデータ、サイトへの流入・利用データ データの活用方法:デジタルチケットの販売・利用データはダッシュボード上で活用、ODデータとあわせて北大の協力を得て分析し、観光消費拡大策や交通利用拡大策に活用
効果	<ul style="list-style-type: none"> 「ぐるっと北海道」に関連するデジタルチケットの販売が前年比で20%増になり、公共交通利用増、交通事業者の収入増に寄与する。 QRコード改札導入モデル地域・事業者において、交通利用増や消費拡大効果が確認できる。 上記により、分析・活用できるデータが拡充し、周遊促進策や消費拡大策の改善に寄与する。 	
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> 「ぐるっと北海道」サイトについて、初年度の2025年度は多くの事業者の参画を重視して事業を進めてきたが、2026年度は、マルチモーダルなデジタルチケットの拡充や付加価値の高い観光コンテンツ等との連携、サイトの改善等により、道内全域での交通利用増・観光消費拡大にとって効果の高い事業を目指す。 特に「QRコード改札導入モデル地域」については、詳細なODデータの把握と消費拡大策との組み合わせ等により、全道展開が期待できる事業になりうる。 	



北海道MaaSプラットフォーム「ぐるっと北海道」プロジェクト(参画交通事業者は拡大していく)

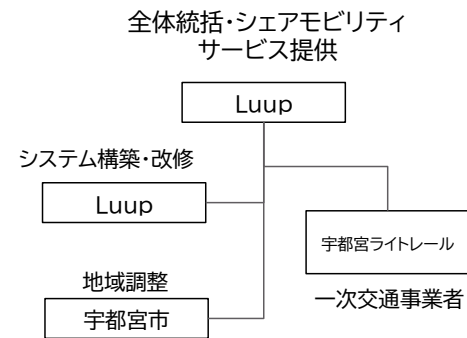
プロジェクト概要	クレジットカード等による交通決済を可能にするキャッシュレスソリューション「stera transit」と、その基盤を活用したMaaSアプリ「Pass Case」を導入することで室蘭市・登別市を主とした地域交通における来街者受け入れ環境整備を図ることに加えて、観光アクティビティと連携したチケット造成によるシームレスな移動とコンテンツの連携による周遊・消費促進を目指す
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光利用も多くある胆振地域においてタクシーはキャッシュレス化が実装済みだがバスは現金精算が主であり、キャッシュレス決済未対応による乗降時間の増加や遅延等のオーバーツーリズムが課題である ● 観光利用者の利用実態やユーザ属性等を捉えることができず、需要に対する運行計画の策定やMaaSチケットの造成に苦慮している
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 室蘭市・登別市を主とした胆振振興局管内の路線バスにstera transitを導入し、タクシーを含めたキャッシュレス化の促進による観光利用者の利便性向上を目指す ● バス、タクシーをセットにしたMaaSチケットを造成し、二次交通におけるシームレスな移動を実現する。(クレジットカード等のタッチ決済を活用したMaaSチケット) <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タッチ決済による交通利用と消費、観光活動等をキャッシュレスデータから分析(SMCCから道南バスに提供し、今後の観光客の公共交通利用施策への活用を想定) ● エリア周遊ならびに消費活性化を目的とした企画券等の新規施策検討への活用 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <p>観光施設や飲食店等の商業サービスと連携したMaaSチケットを造成・予約・購入できる仕組みを導入。認証媒体はタッチ決済機能付きのクレジットカード等を活用するためインバウンド旅客も自国で発行したクレジットカード等で利用することが可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 室蘭エリアではイルカウォッチングやナイトクルーズのアクティビティ割引等による、広域的な回遊体験の提供による観光消費の拡大を図る ● 登別エリアでは、ナイトアドベンチャーや地獄谷ウォーキングを盛り込んだフリーパスチケットをアプリ内で提供し、周遊・滞在・消費等の促進、満足度向上につなげる <p>[協業化・共通化・標準化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クレジットカード等による交通決済を可能にする共通基盤をベースにしたMaaSプラットフォームを活用することで、世界中で発行されたクレジットカード等でのチケット認証を実現する。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光およびビジネスユーズと市民利用の両面において公共交通の利便性向上 ● バスでの現金および紙乗車券精算割合(R6)42%→(実証期間)15%を目指す ● デジタル企画券によるタクシーの観光利用および観光アクティビティの消費拡大
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバルスタンダードであるタッチ決済機能やタッチ決済を活用したMaaSチケットによるシームレスな移動や施設利用体験の提供(民間事業者保有のモビリティデータ連携基盤を活用)

事業エリア	北海道胆振振興局管内全域 (室蘭市・登別市を中心とした、全10市町)
交通事業者	バス:道南バス タクシー:金星ハイヤー(GOアプリ対応)、室蘭ハイヤー
MaaSアプリ等	stera transit SMCC MaaSアプリ『Pass Case』
データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法:stera transit、Custella transit、JCB Date Driver ■ データの活用方法: 乗降ODデータならびにユーザ属性から、観光需要への運行体制構築に活用
座組	スケジュール



4~5月	システム・コンテンツ要件の検討
6~9月	システム開発・車載・試験運用
10月~	実証運行
2月	効果測定 (10月~1月のデータを分析)

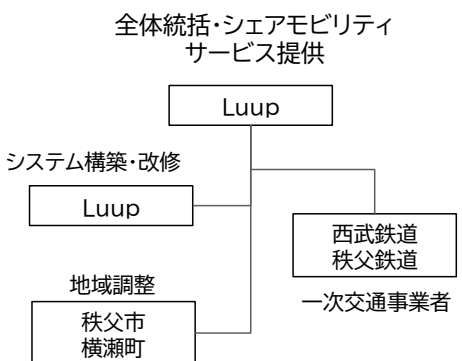
プロジェクト概要	幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルデザインのマイクロモビリティシェアサービスを構築し、他言語対応も含めて誰もが快適にまちを周遊できる体験を提供することで、地域経済の活性化や持続可能なまちづくりに貢献する	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮市の観光エリアにおいて、公共交通(バス・タクシー)の運行本数や乗り継ぎの不便さが回遊のハードルになっており、駅から目的地までのラストワンマイルの移動手段が限られ、誰もが快適に移動できる移動手段が不足。 	事業エリア 宇都宮中央地域(宇都宮市)
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層が利用でき運動能力や言語能力に依存せず、高い走行安定性を持つユニバーサルデザインのマイクロモビリティをシェアサービスとして導入する。 シェアサービスの拡充および観光型MaaS連携を狙うため、モビリティを停車するポートの配備や、LRT(宇都宮ライトレール)での車内広告の掲載や共同での施策を検討し、一次交通と二次交通の連携を図る。 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> モビリティから取得できるデータ(移動回数・移動軌跡等)や実際の回遊データから既存の交通モードのみでは顕在化していなかった利用者動向を可視化し、観光利用、日常利用を含め、公共交通の利用促進策を地域協働で展開していく。 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理的に交通結節点にモビリティを設置することで、一次交通との連携を推進。 一次交通と二次交通の連携だけではなく、地域の観光情報サイト等と連携し、本サービス利用と連動したクーポン等も提供することで、地域経済の活性化に貢献。 	交通事業者 軌道:宇都宮ライトレール株式会社 シェアモビリティ:株式会社Luup
	<p>MaaSアプリ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アプリ・システム:Luupアプリ(既存アプリに機能追加) ■ 既存で事業展開するモバイルアプリのアセットを利用することで、特定小型原動機付自転車の乗車に必要な16歳以上の年齢確認や交通ルールテストをスムーズかつ省リソースで実装。 	
	<p>データの活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法:Luupアプリから得られる利用データを活用。 ■ データの活用方法:利用属性・利用動向・利用傾向等から利用需要を分析し交通政策や観光施策に活用する。 	
効果	<ul style="list-style-type: none"> 安定性が高く多言語対応のモビリティシェアサービスを導入し、誰もが快適に宇都宮を周遊できる環境を整える。滞在時間や消費額の増加を通じて地域経済の活性化を図るとともに、サービスの稼働率、利用者層の変化、Unimo利用者アンケート、Unimoの評価向上、エンドコンテンツ利用率等の指標により効果を定量的に検証する。 	座組
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルなマイクロモビリティのシェアサービスは存在しない。(電動アシスト自転車やキックボードが主流) ■ 現状のシニアカー等は購入価格が約40万円と高額になり、納車までもある程度の時間が必要になり、シニアカーのシェアサービスは存在せず、本事業は利用料が安価で即時利用が可能のため、初めての利用者でもコストを最小限に抑えることが可能。さらに、専用アプリにより利用から決済まで一気通貫したサービスの提供が可能。 	スケジュール



・4月～11月 車両開発・製造
システム開発、実証準備

・12月～1月 実証運行

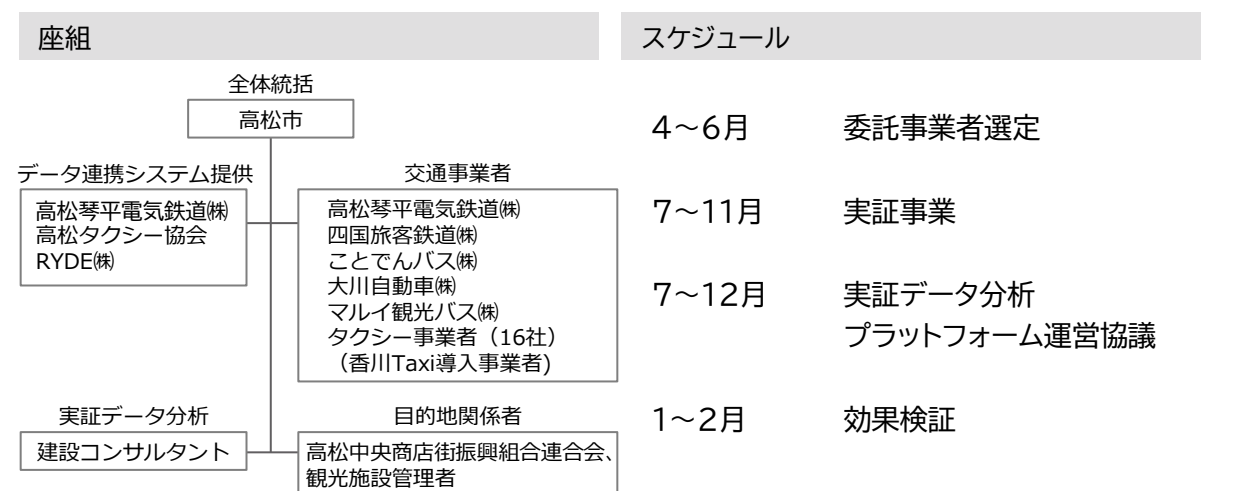
・2月 効果測定

プロジェクト概要	幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルデザインのマイクロモビリティシェアサービスを構築し、他言語対応も含めて誰もが快適にまちを周遊できる体験を提供することで、地域経済の活性化や持続可能なまちづくりに貢献する	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 秩父市・横瀬町の観光エリアにおいて、公共交通(バス・タクシー)の減便が進行しており、駅から目的地までのラストワンマイルの移動手段が限られてしまい、誰もが快適で安全に移動できる移動手段が不足している。 	事業エリア 秩父地域(秩父市・横瀬町)
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層が利用でき運動能力や言語能力に依存せず、高い走行安定性を持つユニバーサルデザインのマイクロモビリティをシェアサービスとして導入する。 シェアサービスの拡充および観光型MaaS連携を狙うため、モビリティを停車するポートの配備や、西武鉄道・秩父鉄道での車内広告や利用促進クーポン等を掲載し、一次交通と二次交通の連携を図る。 	交通事業者 鉄道:西武鉄道株式会社、秩父鉄道株式会社 シェアモビリティ:株式会社Luup
	<p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> モビリティから取得できるデータ(移動回数・移動軌跡等)や実際の回遊データから既存の交通モードのみでは顕在化していなかった利用者動向を可視化し、観光利用、日常利用を含め、公共交通の利用促進策を地域協働で展開していく。 	MaaSアプリ等 <ul style="list-style-type: none"> アプリ・システム:Luupアプリ(既存アプリに機能追加) 既存で事業展開するモバイルアプリのアセットを利用することで、特定小型原動機付自転車の乗車に必要な16歳以上の年齢確認や交通ルールテストをスムーズかつ省リソースで実装。
	<p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理的に交通結節点にモビリティを設置することで、一次交通との連携を推進。 一次交通と二次交通の連携だけではなく、地域の観光情報サイト等と連携し、本サービス利用と連動したクーポン等も提供することで、地域経済の活性化に貢献。 	データの活用等 <ul style="list-style-type: none"> データの取得方法:Luupアプリから得られる利用データを活用。 データの活用方法:利用属性・利用動向・利用傾向等から利用需要を分析し交通政策や観光施策に活用する。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 安定性が高く多言語対応のモビリティシェアサービスを導入し、誰もが快適に秩父・横瀬を周遊できる環境を整える。滞在時間や消費額の増加を通じて地域経済の活性化を図るとともに、サービスの稼働率、利用者層の変化、Unimo利用者アンケート、Unimoの評価向上、エンドコンテンツ利用率等の指標により効果を定量的に検証する。 	座組 スケジュール <ul style="list-style-type: none"> 4月～11月 車両開発・製造 システム開発、実証準備 12月～1月 実証運行 2月 効果測定
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層が安心安全に利用できるユニバーサルなマイクロモビリティのシェアサービスは存在しない。(電動アシスト自転車やキックボードが主流) 現状のシニアカー等は購入価格が約40万円と高額になり、納車までもある程度の時間が必要になり、シニアカーのシェアサービスは存在せず、本事業は利用料が安価で即時利用が可能のため、初めての利用者でもコストを最小限に抑えることが可能。さらに、専用アプリにより利用から決済まで一気通貫したサービスの提供が可能。 	 <pre> graph TD Luup[Luup] --- Luup2[Luup] Luup --- WTB[西武鉄道 秩父鉄道] Luup --- JTK[秩父市 横瀬町] WTB --- JTK WTB --- JTK </pre>

5 地域公共交通TKMTプロジェクト | 高松市

プロジェクト概要	本市の地域公共交通を支える交通事業者間や、目的地(観光地、商店街等)との連携を強化し、地域公共交通をハブに [T]たかまつの[K]くらしを[M]MaaSでもっと[T]楽しくする仕掛けづくりとして、シームレスな移動や目的地での特別体験をデジタルチケットで提供し、得られるモビリティデータ等の分析によるデータに基づく複合サービスの創出に向けた検討を行う。
課題	「運転手不足」などにより、交通事業者単体では、観光客等の周遊を促進する交通ネットワークの構築が困難になりつつあるため、目的地情報の活用も含め、交通産業全体が連携し、支えあう産業構造への変革が必要である。
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● イベント情報×移動サービス×お得なクーポンが、一つのサービスとして受けられる複合サービスの創出に向け、目的地と地域公共交通(電車、バス、タクシー)を掛け合わせたデジタルチケットを導入し、公共交通を利用したくなる体験を提供 デジタルチケット:【公共交通】電車・バス(1日乗り放題)、タクシー(500円割引) 【目的地】ノベルティ、店舗割引、観光地入場チケット <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「交通系ICカード(IruCa)」「香川Taxi」「RYDE PASS」からの取得データ(利用履歴、行動履歴)を活用し、公共交通利用者の動向を分析するとともに、様々な交通モード間のシームレスな利用を支える決済システムの構築に向け、その機能や在り方についての検討を進める。 ● イベント内容等に応じ、地域公共交通を利用したくなるチケット販売価格を設定し、利用者の行動変容(他の目的地への移動、観光消費額)の状況も調査・分析することにより、新たな複合サービスの創出に向けた検討を行う。 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的地(観光地、商店街等)と地域公共交通が連携した複合サービスを提供することにより、様々な目的地への来訪者が増加し、目的地周辺の周遊促進や新たな消費の創出が見込まれる。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「商店街」や「観光地」などに、地域公共交通を利用して「おでかけ」したくなる環境を交通産業全体で構築することにより、目的地への来訪者や、地域公共交通の利用者の増加が見込まれ、様々な目的地に訪れやすいまちとしてのイメージアップ(ブランディング)が進み、観光客から選ばれるまちが形成される。
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ■ モビリティデータや、目的地(観光地、イベント、店舗等)の来場データ等を、連携・分析できるシステムを構築し、目的地情報の発信や、目的地までのシームレスな移動サービス等を、複合サービスとして市民や来訪者に提供することを目指す。

事業エリア	香川県高松市
交通事業者	鉄 道:高松琴平電気鉄道(株)、四国旅客鉄道(株) バ ス:こつでんバス(株)、大川自動車(株)、マルイ観光バス(株) タクシー:高松タクシー協会(法人事業者 16社)
MaaSアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通系ICカード:IruCa ● タクシー配車アプリ:香川Taxi ● デジタルチケット:RYDE PASS
データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法:「交通系ICカード(IruCa)」「香川Taxi」「RYDE PASS」からデジタルチケット等の利用履歴や行動履歴を取得 ■ データの活用方法:イベント内容に応じた利用者の行動変容を分析するとともに、サービス提供の実績に応じた収益の分配手法を検討する



プロジェクト概要	他の決済サービスとの基盤の共通化による利便性向上とデータ利活用推進のベースとなる利用データ取得、バリアフリー情報等の提供を目指す他のMaaSとの連携、空白解消等を目指したモビリティ(AIオンデマンド交通交通等)とのシステム連携標準化を行う。オーバーツーリズムの観点からも現金からキャッシュレスの促進により、外国人観光客の乗降時間短縮に寄与する。				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 特に乗り合いタクシー、オンデマンド交通、コミュニティバスなど交通空白・移動困難地域の解消を目指すモード等との連携が不十分 多様なシステム・決済基盤が乱立しており、仕様が独立し相互運用が難しい 	事業エリア	九州7県(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)		
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> サービスPFを活用した交通空白の解消のため、地域の交通事業者と連携したMaaSプラットフォームをさらに機能拡張し、乗り合いタクシー・AIオンデマンド交通・コミュニティ交通との連携(ルート検索)を推進する。 「ANA Universal MaaS」と連携し交通弱者向けの移動情報提供サービスを実装する。 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 25年度に実装した「WebGIS」を用いて分析する乗車券の拡大やWebGIS機能のアップデートの検討を行う <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州MaaSの観光系サービスプラットフォームであるEnjoy Kyushu における取扱商品を拡大し、観光施設・コンテンツ連携を深度化(myrouteとの連携による送客など)する スポーツ等の集客イベントと連携したMaaSチケット造成を推進する 多言語化チケットの推進や多言語パンフレットを造成することで、インバウンド対応策を強化する 地域観光資源の掘り起こしによる観光コンテンツ開発等を行い観光需要の分散や観光客の移動手段を確保する <p>[協業化・共通化・標準化]</p> <ul style="list-style-type: none"> SMCCと協働し、以下のシステム標準化を行う。①my route上で表示されたQRチケットをsteratransit端末で認証、②my routeの取り扱いチケットをクレカで購入し、購入したカードでのタッチ乗車(EMV)を実現 QRチケット相互運用API標準仕様」に準拠した標準化QRによる共通乗車券(鉄道・バス)の造成 AIオンデマンド交通等とMaaSサービスの連携に向けた標準仕様の検討・構築 	交通事業者	九州エリア交通関係事業者		
		MaaSアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> MaaSアプリ・システム:my route 購入・利用実績ダッシュボードシステム:WebGIS 		
		データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> データの取得方法:MaaSアプリ操作ログ(GPS・属性情報) データの活用方法:購入実績データ(位置情報)を定期的に確認できる状態に可視化・集計し、サービス検討・広告宣伝に活用 		
効果	<ul style="list-style-type: none"> 交通空白解消、交通事業者のフィジカルな連携と、MaaSのデータ利活用など持続可能な交通ネットワーク構築の取り組みを幅広く水平展開 システム標準化を行うことでサービス品質の向上を目指す 	座組	スケジュール		
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> SMCC連携を今回新規に行い、電車、バス等、異なるモードでの移動をシームレスに繋ぎ利用客の更なる利便性向上行う マルチモーダルな経路検索・チケットの連携を更に推し進め、交通空白の解消を図る 地域観光資源を活用したコンテンツの新規開発を行い、企画乗車券等の交通との更なる相互連携によって、観光客の広域周遊および分散化を推進する 	九州MaaS協議会 (事務局:九経連・観光機構・JR九州・西鉄)	機能改修・連携	サービス提供 (新規商品造成)	
		<p>アプリ提供・機能改修</p> <p>トヨタファイナンシャルサービス社</p> <p>システム提供(API連携)</p> <p>SMCC/QUADRAC</p> <p>PF利用者かつ端末導入・保持者 (交通事業者)</p>	4~6月	要件定義	企画
			7~9月	システム開発	造成
			10月~12月	実装	発売
			1月~2月	効果測定	効果測定

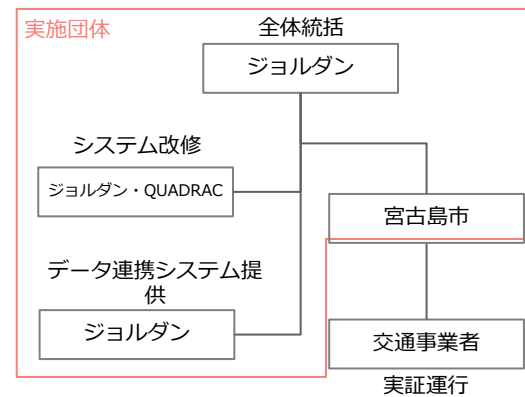
国際標準ID連携による訪日外国人むけMaaS利用拡大・地域観光需要創出及びオーバーツーリズム対策に資するデータ活用基盤構築事業 | トヨタファイナンシャルサービス株式会社

プロジェクト概要	本事業は、国際標準ID(GDPR対応)と連携したMaaS基盤(my route)を活用し、訪日外国人・国内観光客双方の円滑な移動と観光体験価値の向上を実現するものである。交通チケットに加え、観光・飲食・体験等の他分野コンテンツを横断的に連携し、「移動需要の創出と分散化(オーバーツーリズム対策)」を図る。																			
課題	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人の増加に伴い、地域交通・観光地への集中が顕在化。MaaS利用拡大の鍵となる安全・簡便な本人認証(国際標準ID)、交通からエンドコンテンツまでのシームレスな提供、多様な事業者データの連携・活用基盤づくりが急務。交通単体ではなく、観光行動全体を設計するMaaSへの転換が必要 	事業エリア 九州各県・富山・京都																		
取組内容	<p>本事業では、MaaSアプリ「my route」を中核に、国際標準ID連携による安全・簡便な利用環境の整備と、交通と他分野コンテンツを一体で提供する仕組みの構築を行う。これにより、訪日外国人を含む利用者が安心して交通・観光サービスを利用できる環境を整備し、周遊促進や混雑分散に資する観光MaaSモデルを実装する。</p> <p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際標準ID(デジタルパスポート等)と「my route」を連携させ、各国の個人情報法に対応し、利用登録・ログインが可能な環境を構築する。あわせて、インバウンド利用を前提とした交通乗車券等をアプリ内で提供し、訪日外国人でも利用しやすいシームレスな交通サービスを実現する。 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の同意を前提に、交通チケットの購入・利用履歴、アプリ操作ログ、位置情報、属性情報等を取得し、匿名化したうえで蓄積・分析する。これにより、インバウンドの移動実態や周遊傾向を把握し、周遊促進や混雑緩和など、データに基づく観光・交通施策(EBPM)に活用する。今年度は、韓国、SP、香港で実証 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光・体験・飲食等のエンドコンテンツ事業者と連携し、交通チケットと予約制コンテンツを組み合わせた商品造成を行う。アプリ内で検索・予約・決済までを一気通貫で提供することで、「移動+目的」を一体化した利用体験を実現し、周遊促進と観光消費の拡大を図る。 <p>[協業化・共通化・標準化]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「QRチケット認証API標準仕様書」を活用予定 対象チケット あその旅のレールパス(交通モード:鉄道・バス)・ゆふいん1day レール&バスチケット(交通モード:電車・バス) 	交通事業者 九州MaaS参加交通事業者(JR九州、西日本鉄道、九州産交バス等) 京都 : 叡山鉄道 富山 : 富山地鉄、あいの風とやま鉄道、万葉線																		
効果	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー : 国際的に確立された個人情報セキュアな方式で簡単に日本でMaaSアプリを活用可能 事業者 : 中国を除く主要国に販路が拡大し、売上規模で倍増が見込める 自治体等 : インバウンド客の行動データを安全な形で取得できることにより、データ活用を通じたオーバーツーリズム対策等を実施できる 	MaaSアプリ等 ● MaaSアプリ・システム:my route																		
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> 国際規制に対応したな共通ID連携基盤を活用した利用登録システムをMaaSアプリに導入するのは本プロジェクトが初(先行としては、ホテルのチェックイン機能があり) 日本発のデータ基盤により、インバウンド客マーケティングや、オーバーツーリズム対策への展開が可能(現状は、海外クレジットカード会社、OTAのデータに依存) 	データの活用等 ■ データの取得方法: QRチケット、アプリ利用ログ、GPSデータ、デジタルIDウォレット ■ データの活用方法: 商品購入・利用の位置データを可視化・集計し、事業者のサービス企画改善、自治体の観光・交通施策の立案に活用訪日客の移動分析、BIツールでの可視化																		
座組																				
スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>座組</th> <th>スケジュール</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体統括・チケット販売 トヨタファイナンシャルサービス(株)</td> <td>4~6月</td> <td>要件定義 法規制調査 UIテスト・調査 コンテンツ調査</td> </tr> <tr> <td>システム提供 KINTO テクノロジーズ 認証システム・インバウンドInsight サーバー構築 大日本印刷(株)</td> <td>6~10月</td> <td>システム開発・コンテンツ造成</td> </tr> <tr> <td>共通予約システム提供 フォルシア</td> <td>9月~ 11月~</td> <td>チケット販売対象国拡大 予約コンテンツ販売開始 データ分析によるPDCA実施</td> </tr> <tr> <td>交通事業者調整 九州MaaS協議会 チケット企画・造成 交通事業者</td> <td>2月</td> <td>効果検証・レポート</td> </tr> <tr> <td>体験コンテンツ開発・提供 JTB 三重交通 カッセジャパン</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	座組	スケジュール	内容	全体統括・チケット販売 トヨタファイナンシャルサービス(株)	4~6月	要件定義 法規制調査 UIテスト・調査 コンテンツ調査	システム提供 KINTO テクノロジーズ 認証システム・インバウンドInsight サーバー構築 大日本印刷(株)	6~10月	システム開発・コンテンツ造成	共通予約システム提供 フォルシア	9月~ 11月~	チケット販売対象国拡大 予約コンテンツ販売開始 データ分析によるPDCA実施	交通事業者調整 九州MaaS協議会 チケット企画・造成 交通事業者	2月	効果検証・レポート	体験コンテンツ開発・提供 JTB 三重交通 カッセジャパン			
座組	スケジュール	内容																		
全体統括・チケット販売 トヨタファイナンシャルサービス(株)	4~6月	要件定義 法規制調査 UIテスト・調査 コンテンツ調査																		
システム提供 KINTO テクノロジーズ 認証システム・インバウンドInsight サーバー構築 大日本印刷(株)	6~10月	システム開発・コンテンツ造成																		
共通予約システム提供 フォルシア	9月~ 11月~	チケット販売対象国拡大 予約コンテンツ販売開始 データ分析によるPDCA実施																		
交通事業者調整 九州MaaS協議会 チケット企画・造成 交通事業者	2月	効果検証・レポート																		
体験コンテンツ開発・提供 JTB 三重交通 カッセジャパン																				

プロジェクト概要	オンデマンド配車アプリ・システムを活用した公共ライドシェアの最適な運行エリアの検証とMaaSアプリとの連携による観光利用の促進	事業エリア	宗像市
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティバスが廃線となり、地域住民の生活の足の確保が必要。 ● 観光客向けの公共交通を確保し、地域経済の活性化が必要。 	交通事業者	新星交通、みなとタクシー、宗像グリーンタクシー
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度事業で構築したオンデマンド配車アプリ・システムを継続導入し、現在の5地区に加え、新たに4地区に導入する。 ● 住民/観光客観点で需要が見込める乗降地を短期間設定し、利用数の変化量を検証する。 ● アプリダウンロードの手間なく公共ライドシェアを配車できるようにするため、主に観光客をターゲットにブラウザからアクセスできる配車依頼WEBページを構築する。 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度事業で構築した運行分析システムを活用し、乗降地毎の利用者数の変化等が可視化できるように改修し、柔軟な乗降地設定の検討材料として利用する。 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MaaSアプリ「my route」内で特定の場所がエリアや目的地に設定されたとき、ルート検索結果に公共ライドシェアを表示する。 ● 「my route」から外部遷移した際に出発地と目的地がセットされた状態でオンデマンド配車アプリ・システムを起動、スムーズな予約を可能にするためアプリ間連携を行う。 <p>[協業化・共通化・標準化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通事業者であるタクシー事業者が利用している既存配車システムとオンデマンド配車アプリ・システムを連携させ、事業者の業務効率化を実現する。 	MaaSアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンド配車予約・指示システム ● 配車管理システム ※宗像市タクシー会社導入済みシステム ● ドライバーズアプリ ※宗像市タクシー会社導入済みアプリ ● 運行分析システム ● My route
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 最適な乗降地を設定し、MaaSアプリ「my route」との連携を深化させることで、公共ライドシェアの利用者数の増加 (R7: 1,181人⇒R8: 15,750人へ増加) 	データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法: 公共ライドシェアに車載器を設置し、車両・ドライバー・利用状況などのデータを収集 ■ データの活用方法: 最適な乗降地等の検証に活用
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公共ライドシェアの乗降地の最適化を検証 ■ 運行分析システムに各乗降地の利用状況が把握できる機能を追加 ■ MaaSアプリ「my route」でのルート検索およびオンデマンド配車アプリ・システムとの連携 	座組	スケジュール
		<p>全体統括 地図データ提供 運行分析システム構築</p> <p>運営主体</p> <p>宗像市</p> <p>NPO法人 まちづくり宗像</p> <p>運行委託</p> <p>みなとタクシー 新星交通 宗像グリーンタクシー</p> <p>実証運行</p> <p>ぜんりん</p> <p>山本製作所</p> <p>配車アプリ・システム開発</p> <p>システム オリジン</p> <p>既存システム改修</p> <p>アルパイン マーケティング</p> <p>広告宣伝 交通事業者調整 実証運用</p> <p>トヨタファイナン シャルサービス</p> <p>My route連携</p> <p>モバイルクリエイト</p> <p>配車システム連携</p> <p>パソコン交通</p>	<p>4～6月 要件定義</p> <p>7～10月 システム改修</p> <p>11月～1月 実証運行</p> <p>2月 効果測定</p>

プロジェクト概要	宮古島におけるクルーズ船寄港時を中心とした通年でのオーバーツーリズム問題の解決と島内路線バスの利便性向上および利用促進のため、「宮古島周遊フリーパス」のアクティビティ拡充と、路線バスとタクシーの連携強化、相互補完による利便性の高い島内周遊等の観光体験をインバウンドを含む観光客に提供し、レンタカーでの観光から公共交通での観光を推進する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● クルーズ船寄港時にはタクシーが捕まらない等、地元住民の移動が困難な状況が発生しており、2026年は109回(25年78回)の寄港が見込まれ対応が急務。 ● 島内観光においてはレンタカー利用が主流となっており、車両数増加に伴い事故等も増加傾向にあるため、公共交通の充実による環境改善が求められている。
取組内容	<p>[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MaaSアプリからタクシーの配車を可能とする機能の開発、シェアサイクル等の圏域内モビリティの拡充を実施。 ● インバウンド対応として、多言語対応を実施。 <p>[モビリティ・データの取得と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本取組みの利用実績を元に、自走化に向けた価格設定の検証および路線バス路線再編、運賃体系などの見直しに活用 <p>[エンドコンテンツとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宮古島周遊フリーパスへのアクティビティ拡充により、公共交通利用機会の増加と広域的な回遊体験の提供による観光消費の拡大を図る。 <p>[協業化・共通化・標準化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通サービスの高度化で国交省が定める「QRチケット認証API標準仕様書」(仮)に準拠したQRチケットシステムを導入し、ジョルダンモバイルチケットサービスと認証機器で周遊企画券のチケット認証を実現する。(共通化)
効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の高い公共交通利用を促進できるサービスを提供することにより、観光客の周遊・滞在・消費の促進を実現、またインバウンド対応により事業者対応工数の削減、混乱抑制効果を見込む。 ● チケットの利用数の増加により、交通再編への参考となる利用データの集計が増加
事業の新規性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多言語対応、情報発信強化によりインバウンド増加によるオーバーツーリズムの問題解決、未然防止の取組みを推進していく。 ■ アクティビティ拡充および価格改定を行うことで、優位性の高いチケットを展開。レンタカーが主流の公共交通を活用した観光への行動変容を実現させる。

事業エリア	沖縄県宮古島市
交通事業者	バス事業者:宮古協栄バス、八千代バス、共和バス、中央交通 タクシー事業者:宮古島タクシー事業協同組合(14事業者) シェアサイクル(調整中)
MaaSアプリ等	<ul style="list-style-type: none"> ● MaaSプラットフォーム:ジョルダンモバイルチケットサービス ● QR認証:Q-move、ジョルダンモバイルチケットサービス ● 経路検索機能:乗換案内 ● ダッシュボードシステム:Google Looker Studio
データの活用等	<ul style="list-style-type: none"> ■ データの取得方法:MaaSアプリから利用者情報、バスのODデータを車載システムから取得 ■ データの活用方法:MaaSサービスの利用データやODデータをLooker Studio上で可視化し、バス路線再編の検討に活用。
座組	スケジュール



- 4~5月 要件定義
- 5~8月 システム開発
- 9月~12月 実証運行
- 1月~2月 効果測定